

ISう？ そんなものよ
りゲームだああああ
あ！

春雷海

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

檀クロトはIS適正試験に巻き込まれ、偶然にもISを起動してしまい、IS学園へと入学する羽目に！

檀クロト「んっ？ IS？ なにそれ美味しいの？ そんなものよりゲームを創りた
いんだけど？」的な物語である

因みに、息抜き交じりの小説である。最近かけないの…。

目次

I S う？	そんなものよりゲームだああ
あああ！	1

ISう？ そんなものよりゲームだあああああ！

既存の兵器を遥かに凌駕する性能を持つが、女性にしか動かせないという新兵器「IS（インフィニット・ストラトス）」が発明されたことで女尊男卑となった世界。そして、その世界を構成する重要なファクターとなり得た男子禁制であるIS。

——至極どうでもいい。

私はそう思った。そんなものの気に留める暇があったらもっと大事なことを目を向けなければならぬ。

わたしにとっては命ともいえるそれこそ、ISよりも重要で、この命をかけてでも今後創つていかねばならない。

幼いころから抱えていた趣味であり、今もなお熱中し続けているそれを創っていくところこそ、私にとって重要なもの。

ISなんぞそこらへんの女子や、ISを動かしたファーストやらに任せればいい。それよりも私にとってやるべきことをしなければならぬ——。

【社長！ 魔界村 3Dが100万本突破しましたっ！】

チャットに浮かんだその文字が私を叫ばせた。

「ぬわにいいいいいいいいいい!? それは本当なのか!？」

私こと壇クロトは悲鳴ならぬ喜鳴を上げた。

先程まで教員の授業中で静寂に満ちていた教室が、私の声が響き渡るものの、特に気に留めない。私は既にパソコンの画面上に映っているリモート画面につながっている幹部にしか目を向けていなかった。

ミュートにしていた音声を認識させ、その場で会話をすることに決めた。

チャットなんぞでもう会話する気にもならん！ 今すぐにでもしゃべりたい気分で一杯だっ！

『本当です、社長！ 魔界村 3Dがついに100万本突破しましたっ！ そのことで取材したいとのことですよ、しかも今日ですよ今日！』

壇クロトことゲーム開発会社「クロノスコアポレーション」の若き社長であり、IS学園二人目の男子生徒——であるはずなのだが初日から問題行動ばかりを繰り返したために、問題児として認定されたのと言うまでもない。

* * * * *

クソゲーしかねえ。この世界に転生した私が思ったことはまずそれだった。

前世ではガチのゲーマーで、かつゲーム会社に勤めていた私。前世には様々なゲームがあった。それこそ子供や大人を魅了させる程の素晴らしいものが。

今世でもさぞかし素晴らしいゲームがあるのだろと思っていた矢先……対面したのはなんも魅力も感じないゲームばかりだった。

この世界にはあの有名なタイトルたちが存在しなかった——あるのは見たことも聞いたこともないばかりのものばかりのクソゲーばかりだった。しかも中々条件が厳しく、中々進めなかつたり、キャラクターたちが矛盾するようなばかりの行動をとってアシナシが多かつたり、余りにも低予算で創られたであろうものばかりで、バグが多く進め

ああ早く企画を練り上げ、提案しなくては——魔界村3Dが作れたのだっ、今度はゼルダを提案しなければならなああああああああああああああああああああああああああああ
あああああああああんっ！

「あつ、社長。そういえばご両親よりお預かりしているものがありますよ……社長専用のISですって」

「ふふふつ、父さんと母さんめ、そんなものはいらないうってに……だがまあ、ありがたく受け取っておくか、起動するのは学園で良いだろう」

両親からプレゼントされたドライバーと、紫色のガシヤットの入ったケースを持って、私は取材に赴いた——。

「マイティジャンプ！マイティキック！マイティアクション！エックス！」

これは、ゲームを愛する男が、ISの世界でゲームをかたどるライダーで戦うお話——それよりも壇 クロトによる熱いゲーム制作の話の方が盛り上がるかもしれない……。

「……このゲームは？」

「うん？ ああ、それか、特撮をモチーフにしたゲームなんだが、私はどうもそういうのが分からない——」

「教えてあげる、だから作って」

「むっ、な、なんだこの目は——私に何が何でもこのゲームを創らせるといふ強い意志を感じるぞうウウウ！」

ちよつとした恋愛もあるかもしれない